

日 時 令和元年8月30日(金) 2時間目 9:40~10:25 (45分)

会 場 上田市立南小学校図工室

参加人数 106人

(内訳 6学年全生徒101人 教頭・教諭5人 講師、事務局含まず)

【授業…45分】

上田における戦争と平和 講師：橋詰 一夫 氏(創作民話作家)

- ・千曲高校と南小学校のある場所は、上田飛行場であった。
- ・きっかけは、この場所に不時着した旧陸軍の飛行機。山に囲まれ風も安定し、かつ海からも遠く攻撃しにくい立地であることが決め手となった。
- ・この地は、千曲川の河岸段丘。
- ・平らな地が広がるが、川が運んだ砂利が大きな石が堆積して、飛行場にするにはたいへんな作業があった。



【永井教頭から市・講師の紹介】

- ・6年生が入学する前に橋詰講師は庁務員として勤務していたとの紹介。
- ・9月10日松代大本営への見学の事前学習になる。
- ・地域に残る戦争遺構を知ってほしい。



【橋詰講師から、河岸段丘の話】

- ・川辺町から一段下がって中之条がある。
- ・さらに現千曲川へと続く。

- ・では、太古の時代この場所はどんな場所であったのか。
- ・生徒に質問を行う。
- ・男子生徒が挙手の上回答する。



【生徒に講師から質問】

- ・この地は、太古の時代どうだったと思うかとの質問に対して、海の底だったとの回答をする。
- ・半過岩鼻、小泉大日堂のクジラの骨の化石等から、知っていたとの発言。

- ・飛行場には、朝鮮人労働者が従事したが、彼らを温かくもてなしたのがこの地の人々。
- ・朝鮮人は、ずるがしこいという先入観を植え付け、決してまともに話さない、あくまで自分たちの使用人とのことから、集団でいわゆる「タコ部屋」に押し込むのが通例。
- ・この地の人々は、自らの家の離れに住ませ、隣人、友人の対等の立場の扱いをした。



【橋詰講師から、隣人として歓待した朝鮮人労働者の話】。

- ・同じ敷地の離れに住ませ、交流を持っていた。
- ・神畑では、タコ部屋に朝鮮人労働者の住まわせていたとの史実がある。

- ・上田は、蚕都上田という歴史から、戦後、工業製品への転換、ものづくり産業が台頭したが、その基礎は、戦中疎開の企業。
- ・戦禍を避けて多くの企業が首都圏から疎開した。
- ・強制疎開のため、意にそぐわず移転した企業もあったが、この中で、オルガン針(株)は、針製造で、風があり乾燥する上田の気候で針がさびないというメリットはあったが、そもそも、覚悟をもってこの地で事業を行うという強い意思をもって移転した。
- ・その証拠に、通常、強制疎開の企業の社屋は、国費等で簡便な建物を建設するが、こうした社屋を見た当時の社長は、激しく抗議し、納得いく社屋を建設させたという事実がある。
- ・先日、オルガン針(株)に伺い、社に残る記録からその事実を確認してきた。
- ・今では、しっかり地に根を下ろした企業となっている。

まとめ

- ・ 74年前の戦争の遺構は、地域に残っている。
- ・ 戦争は、人を変え、すべてを壊してしまうものであるが、この地域には、朝鮮人労働者を歓待した史実がある。
- ・ 松代大本營の見学に際して、では松代での朝鮮人労働者の扱いはどうだったのかぜひ聞いてほしい。
- ・ 現在、不幸にして、韓国との間で「徴用工問題」により国家間の紛争に発展しつつある。
- ・ 今、戦争を語れる人がいなくなっている現状で、本日の内容や地域に残る戦争遺構から学び、悲惨な戦争を二度を起こさないという気持ちを新たにしてほしい。

(了)